

Digital National Security Archive アメリカ外交政策極秘文書シリーズWeb版

イラクへの攻撃・2: 戦争と占領、2004年-2011年

Targeting Iraq, Part II: War and Occupation, 2004-2011

イラク戦争後のアメリカによる対イラク政策記録

連合国暫定当局(CPA)からイラク暫定政府に主権が移譲された2004年から、2011年のアメリカ軍撤退までの期間を対象に、アメリカの対イラクに関する文書を2,100点・77,000ページを収録します。アメリカ軍、米国政府によるイラク復興監察官室、有志連合、在イラクアメリカ大使館、国防省、ホワイトハウスなどから機密文書を集約した当コレクションは、アメリカの対イラク政策の変遷だけではなく、新たなイラク政府および選挙制度の樹立、イラクにおけるアルカイダの活動、アメリカの対テロ政策などの調査にご活用いただけます。

なかでも、当コレクションはアメリカ軍から500点、国防省から100点の文書を収録し、駐屯していたアメリカ軍の状況をつぶさに辿ることができます。イラクにおけるアメリカ軍の目標や戦術、そしてそれらに対して、看過するのか抵抗するのか、イラクが取ったさまざまな反応を記録した文書を収録します。さらに、軍の歴史研究者によって編纂された資料群によって、軍が発展するまでのナラティブを提供します。

当コレクションは、「イラクへの攻撃・1: 計画・侵攻・占領、1997-2004年」および「ラムズフェルドの機密メモ: スノーフレーク」を相互に補完し、合わせて利用することで、アメリカの堅固な外交および軍事政策について調査をすることができます。中東およびイラクにおける紛争研究に、あわせてご検討ください(関連コレクションの詳細は裏面をご参照ください)。

Digital National Security Archive アメリカ外交政策極秘文書シリーズ Web版

機密解除文書を中心にアメリカ政府の外交関連文書を収録するデータベースです。

重要な国家政策の形成・施行過程に関するアメリカ政府機関の文書を収集・公開する非営利団体、The National Security Archive (NSA、アメリカ国家安全保障アーカイブ)とClarivate(旧ProQuest)の協力の下、NSAの所蔵文献の中から特に重要な文献を選び、学術研究向けに編纂して提供します。

**NATIONAL
SECURITY
ARCHIVE**

【当コレクションがカバーするトピック例】

- アメリカが及ぼしたイラクの政治・経済面への影響
- サダム・フセインの人道に対する罪
- アメリカ軍が使用した劣化ウラン弾や白リン弾による健康被害
- アブグレイブ刑務所での拷問
- ハディーサ、マハムディア、ニソール広場における、アメリカ人による虐殺
- BlackWaterをはじめとする民間軍事会社による管理
- ブッシュ政権、オバマ政権による外交政策
- アメリカの対テロ政策
- 2003年のアメリカの侵略後の歴史



契約形態: コレクション毎の恒久アクセスライセンス
(年毎に維持料金あり) または全コレクション年間購読
IPアドレス認証方式・同時アクセス無制限

個別にお見積り致します。お気軽にお問い合わせください。
販売総代理店: 株式会社紀伊國屋書店
デジタル情報営業部 email: pqhelp@kinokuniya.co.jp

【中近東地域に関連するコレクションのご案内】

アフガニスタン紛争とアメリカ: 1998年-2017年 The Afghanistan War and the United States, 1998-2017

第43代ブッシュ大統領からオバマ大統領在任期間までの約20年間を対象に、米国国務省、アメリカ中央軍(CENTCOM)、国防情報局等が所蔵するアフガニスタン紛争関連の記録を収録します。当コレクションでは、主に2001年から2011年にかけて作成された文書を収録しますが、1992年から2001年にかけての内戦にまつわる文書もご覧いただけます。

アフガニスタンとアメリカ: 1973-1990年 Afghanistan: The Making of U.S. Policy, 1973-1990

ソ連によるアフガニスタン軍事介入と、対抗するアメリカ政府の外交・軍事政策を対象に、アメリカ国務省、CIA、在アフガニスタン米国大使館、在パキスタン米国大使館などの文書を収録します。1979年のソ連軍によるアフガニスタン占領の背景から、1988年の和平合意、1989年のソ連軍全面撤退に至るまでの、米ソの緊張状態と周辺アジア諸国を含んだ対立の構図を解明することができます。

アメリカの対イラン政策: 革命から核合意まで、1978-2015年

U.S. Policy toward Iran: From the Revolution to the Nuclear Accord, 1978-2015

1978年のイラン革命前夜から2015年の核合意まで、約40年にわたる米国とイランの不安定な関係を明らかにします。国務省やホワイトハウスの機密解除文書を多く含み、カーター大統領の手書きメモなど貴重な一次資料が含まれています。イラン革命、イラン・イラク戦争、テロ支援国家指定、核問題などのテーマを中心に資料を収集し、両国を分断してきたあらゆる問題を考察する上で不可欠な資料群です。

イランとアメリカ: 1977-1980年 Iran: The Making of U.S. Policy, 1977-1980

イラン革命とアメリカの外交政策の変遷を記録します。カーター政権とイラン国王の関係、動乱・革命、1979年のアメリカ大使館選挙・外交官人質監禁事件、アメリカ政府の最終決断とホメイニ氏の就任まで、相次ぐ出来事を詳細に記録します。その背景に潜む、政治的・宗教的イデオロギーを理解する上でも重要な役割を果たします。

イラン・コントラ事件: 1983-1988年 Iran-Contra Affair, The: The Making of a Scandal, 1983-1988

イラン・コントラ事件に関する、内部メモ、通信文、生命、裁判記録、諜報レポートなどを提供します。イラン及びコントラ支援に関与した機関・個人の地下潜伏と秘密工作の過程、アメリカ政府の対イスラエル戦略、1986年のアメリカ政府高官のイラン秘密訪問発覚から、その後の告発・裁判の過程まで、事件の全容を明らかにします。

アメリカ イラクへの攻撃・1: 計画・侵攻・占領、1997-2004年

Targeting Iraq, Part 1: Planning, Invasion, and Occupation, 1997-2004

イラク戦争をはじめとする、アメリカの対イラク政策に関連する文書を収録します。フセイン政権の打倒がクリントン米政権の外交政策目標に設定された経緯、イラク侵攻の支持を得るために政府内でなされた議論、イラク戦争開戦とその後のアメリカによるイラク占領・統治などを記録します。また、諜報レポートからアメリカ政権が用意した一般公開文書まで収録し、イラン侵攻の正当化のために恣意的に情報が取捨選択された経緯を分析することができます。

イラクゲート: フセインとアメリカの外交政策・湾岸戦争の前兆、1980-1994年

Iraqgate: Saddam Hussein, U.S. Policy and the Prelude to the Persian Gulf War, 1980-1994

「イラクゲート」スキャンダルを中心に、レーガン・ブッシュ政権期の対イラク政策の記録を、国務省、英国政府、在バグダッド米大使館などから集め提供します。湾岸戦争以前の親イラク政策と、イラクゲート、フセイン政権の大量破壊兵器の保有疑惑と対するアメリカ政府の政策などに関する資料を提供します。

テロリズムとアメリカ: 1968-2002年 Terrorism and the U.S. Policy, 1968-2002

政治目的によるハイジャック事件が本格化し始めた1968年から2002年までを対象として、ジョンソン大統領からブッシュ大統領によるテロリズムへの対決姿勢を記録した資料を収録します。国務省、国防総省、CIAなどの数多くの政府機関で散逸して閲覧困難となっていた初期のテロリズムに関する歴史的文献から、2001年9月11日の同時多発テロ後の最新レポートまでを広範にカバーします。

大量破壊兵器に関するアメリカの諜報活動: 第二次大戦からイラク戦争まで

U.S. Intelligence on Weapons of Mass Destruction From World War II to Iraq

第二次世界大戦以降の世界における、大量破壊兵器の保持・開発に関する文書を収録します。CIA、アメリカ国務省、大使館などの文書を収録し、アメリカの諜報機関の分析内容、世界の大量破壊兵器の現状、諜報活動と外交・安全保障政策の繋がり方を調査することができる、貴重な一次資料群です。